

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で話し合って理念と目標を作成し実践している。	法人理念を提示し、職員で共有した取り組みが行われている。今年度、職員会議で理念に沿った目標の再確認が行われ、サービス提供を目指した理念を提示し、家庭的な雰囲気の中で、利用者一人ひとりに思いが伝わるサービス実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に気軽に参加もらえる行事を毎月開催し、回覧板でお知らせしている。地域の方が毎月カラオケに来てくださっている。地域の方の夏祭りや小学生との交流会に参加している。地域の方から、野菜をいただいたり、庵の畑の世話に協力していただいている。	年間の地域行事には積極的に参加している。地域との交流を目的とした年間行事計画を立てており、毎月回覧板を通じて地域交流事業として積極的に取り組んでいる。笹団子作り、畑での野菜作りなど季節ごとに利用者と一緒に楽しむなど、地域との交流には力を入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板に認知症やグループホームの説明を載せて地域に発信している。コミュニティセンター主催の介護教室に講師として参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況とサービスの実際を報告したり、避難訓練を見学していただき、ご意見をサービス向上に生かしている。議事録は職員全員で共有し、ご家族にも郵送している。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、会議では日々の状況、実践の取り組みについて報告され、意見、要望等を伺っている。また、利用者の家族にはそれぞれ交代で会議に出席をお願いしている。会議内容についても利用者家族に送付し、意見、評価を聴く機会を設け、職員には職員会議、ミーティング等で話し合われ、その後の介護サービスに活かされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課と包括支援センターの職員に参加してもらっている。市が開催する「すこやかともしび祭り」に参加している。	市担当職員との積極的な連携が構築されており、運営推進会議によらず、市が開催する行事や会議など、様々な機会を通じてケアサービスに繋げている。防災訓練では避難訓練を見学していただくなど、市町村との連携を深めた取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は認知症とご利用者の気持ちの理解に努め、見守りながら、抑制することなく援助を行っている。定期的に身体拘束や不適切なケアについて勉強会を行っている。	法人内で定期的に権利擁護等の勉強会を行い、高齢者の身体拘束に関する意識のもと、安全と安心面に配慮した取り組みが行われている。管理者、職員の意思統一が図られ、身体拘束に繋がる抑制はされていない。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は認知症とご利用者の気持ちの理解に努め、虐待について定期的に勉強会を行っている。閉鎖的にならないように注意を払い、市の介護相談員制度も利用している。	法人内で定期的に高齢者虐待防止関連法について、研修や市の介護相談員制度の活用等、法人全体で虐待防止に関する理解の浸透に向けた実践の取り組みを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の勉強会を計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明する内容をマニュアル化しており、分かりやすいように説明している。契約時に不安や要望をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映		利用者家族に法人全体で行き会合時などには	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れ、直接ご利用者の気持ちなどを聞いてもらっている。 ご家族が意見を言いやすいように、運営推進会議や面会時に個別にお聴きしている。	利用者家族には面会時や行事参加時などに意見を気楽に話せる雰囲気づくりに努めている。また、いただいた意見や要望等は運営推進会議や市の介護相談員の協力のもと、改善に向けた努力がなされ事業所運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は会議や朝のカンファレンスで話し合い、ケアや業務に反映させている。管理者は職員個々に考えを聞く機会を作っている。	管理者は会議に関わらず、普段から朝のカンファレンス等を通じて、利用者、職員の要望、提案等を伺うと共に、職員の意向を把握し業務改善に繋げ、良好な運営体制が整備されている。また、管理者は職員が意見を言いやすい雰囲気づくりにも丁寧に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は毎年度始めに自己の目標を立て、年2回、達成度を自己評価している。上司は各職員と面接をし、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせて研修を企画し、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム間でお互いの行事に参加し交流を深めている。グループホーム職員間でも懇親会を行い、交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式シートを活用し、本人の思いや生活歴をお聴きして、不安感の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望や不安な事などをお聴きしている。面会時に、お気づきの点やご要望をお聴きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望をケアプランに取り入れている。必要に応じ、医師・看護師・リハビリ職・管理栄養士に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・家事を一緒に行い、一緒に生活している者同士として役割を担ってもらっている。畑仕事や草取りを一緒に行い、収穫の喜びを共有している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけたり、一緒に昼食を食べていただいたり、ご利用者と電話で話してもらったりして、疎遠にならないようにしている。担当者会議に参加してもらい、ケアプランについて一緒に考えている。	今までの暮らしが継続されるよう、毎月お便りを添え、「家庭的な雰囲気の中で、笑顔で豊かな生活を過ごし心安らぐ居場所」として、利用者の様子や職員の思いを伝えている。家族との関係が疎遠にならないよう、担当者会議に参加してもらうなど、共に支援策を考えながら協力関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援では、お墓にお参りに行きたいご利用者の思いを大切にしている。併設施設の知り合いに面会にいくなどの支援をしている。ご家族や知人の面会時には、居室でゆっくり過ごしていただいている。	ご家族や馴染みの友達等が気楽に訪問できる雰囲気づくりを心がけ、面会時にゆっくりと居室で過ごしていただけるよう配慮している。家族と一緒にお墓参り、買い物、美容院、施設の友達を訪ねたりと、地域との関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が会話できるよう、もしくは、落ち着いて過ごせるようにその時のご利用者の表情や行動に気を配りながら、時には職員が介入し、良好な関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院や施設に移られても、面会に行ったり、散歩に来てもらったりしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族・ご本人にサービス担当者会議に参加していただき、意向をお聴きしている。意向の表出が困難な方は、ご家族から情報収集したり、日々の関わりから把握するよう努めている。	本人、ご家族にサービス担当者会議への出席を求めるなどして、本人はじめご家族の意向把握に努めている。言葉で表現できない方には、本人の気持ちに寄り添いながら、日々の生活の中で注意を払って把握に努めている。また、把握した情報は記録を取って職員間の共有もなされている。		
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から情報を集めたり、ご本人の日頃の会話から把握するよう努め、生活リズムが大きくかわることがないように努めている。	入所時に本人やご家族から、これまでの生活習慣や趣味など詳細な聞き取りをおこなっている。入所後は、本人の日常生活の様子から、嗜好やこだわりなどの特徴を把握するとともに、家族との面会時に改めて聞き取りを行うなど、本人の生活リズムが大きく変化しないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックとともに、表情や言動からもその日の体調を伺い知るように努め、記録に残し、申し送って共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、ご利用者ご家族に参加いただいて担当者会議を行い、ケアプランに反映している。状態に応じて、他職種の意見を参考にしている。	居室担当者が中心となって、定期的にモニタリングを行っている。サービス担当者会議における本人やご家族からの意見、要望や日常的な関わりの中で、担当職員が把握している気付きを踏まえるとともに、必要に応じ、他の職員からの意見なども参考にしながら、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践やご様子を分かりやすく簡潔に記録し、ご利用者の言葉もそのまま記録している。連絡ノートや看護師連絡帳で職員間で共有している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状態やご家族の状況の把握に努め、その時必要なサービスを話し合って提供している。併設施設の他職種に相談に乗ってもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流行事で地域の方と交流したり、カラオケボランティアや幼稚園児の訪問、畑作業の協力、スーパーや公共施設への外出など、地域との関わりがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院に職員が付き添って受診し、受診結果をご家族に報告している。ご利用者の身体状況に変化があった時は、すぐ看護師に報告し相談したり、受診したりしている。	利用者の多くが併設病院での受診を希望しており、介護職員付き添いのもと受診している。職員から日常生活の様子や体調について、詳しく報告がなされており、適切な医療が受けられるよう併設病院との連携が図られている。受診結果は職員や家族へのフィードバックがなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の様子で気付いた事があれば、すぐ併設病院の看護師に状態を報告し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した時は、安心して治療できるように病院関係者に情報提供している。病状をお聴きして、面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に退所基準についてお伝えしている。ご家族の面会時に近況をお伝えし、ご利用者の状態を把握してもらえるように努めている。	重度化した場合の事業所の指針については、入所時に家族に説明し同意を得ている。また、入所後に状態が悪化した場合は家族との話し合いのもと、併設の病院へ移行し適切な医療が受けられるよう、側面からの支援にも努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルに沿って対応できるように、急変時初期対応の勉強会を行っている。	定期的に勉強会を開催し、全ての職員が利用者の急変や事故発生時における応急処置などの知識と技術の習得に努めている。マニュアルも整備されており、適宜、訓練が実施され実践力を身に付けている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜想定で避難訓練を行っている。地域の方にも避難訓練を見学していただき、運営推進会議で意見をお聴きしている。消防署通報専用電話機の通報訓練を毎月行っている。	年2回の避難訓練は、併設の病院、介護保険施設との合同で昼夜を想定して実施している。マニュアルには、避難方法や誘導の手順などの詳細が整備されている。消防署への通報訓練も毎月実施されている。	事業所周辺の敷地も広く、併設病院や関連施設との協力体制も整っている。しかしながら、災害では想定外の事態も生じるため、地域との連携がますます重要である。今後の訓練では地域の一部委員の参加や見学だけでなく、共に活動していただくことで、地域との連携をより密接に図っていくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの方の人格を尊重した声掛けや対応の仕方をしている。プライバシー保護の勉強会を行っている。重要書類は事務所内で管理している。	職員は利用者の心身の状況などに配慮して穏やかな対応を心がけている。開かれる勉強会等でも利用者への失礼な言葉遣いや尊厳を損なうような場面がなかったか振り返りを行うとともに、認知症への理解を深めるため、受容することの大切さについて話し合いが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事・買い物・室内環境など、細かに希望をお聴きし、出来る限り対応している。ご利用者が自分の思いや希望を話しやすいよう、ゆっくり傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出希望がある時は一緒に出かけるなど、その日やりたい事があるご利用者には、出来る限り希望に沿った対応をしている。お地藏様の着物を作りたかった利用者につき添って何度か外出し、達成できた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は併設の床屋や訪問美容を利用して いる。ご家族と一緒に行きつけの美容院に 行かれる方もある。毎日着る服をご利用者 自身に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	好みの物や季節感が味わえる食事メニュー にし、食事形態にも気をつけている。できる 作業をしていただき、職員とご利用者が一 緒に準備や片付けをしている。	献立は利用者の嗜好を踏まえて作成されて いる。月に2回、管理栄養士による点検が行 われているため、栄養バランスにも配慮がな されている。利用者の食事作りへの積極的な 参加や外出を兼ねた近くのスーパーへの食 材調達、地元農家からの頂き物で食卓を飾 るなど工夫もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	一日分の水分量を記録し、状態に合わせて 摂取しやすい工夫をしている。栄養バランス を考えた献立を作り、食事形態については、 リハビリ職や栄養士に相談している。管理 栄養士から月に2回研食をしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	1人で上手に出来ない方には、見守りや介 助をし、入れ歯は毎日消毒している。年1 回歯科検診を受け、個別に歯科衛生士の口 腔ケアを受けている方もいる。法人の口腔 ケア勉強会に参加している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで の排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な方には、排泄チェック表 をつけて排泄状況を把握し、時間を見なが ら声掛けをしてトイレで排泄できるようにして いる。その日の状態に合わせた介助を行っ ている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排 泄間隔を把握し、本人の自尊心を傷つけな いようトイレ誘導を工夫している。また、各居 室にはトイレが設置されており、他者に気遣 いすることなく安心して排泄ができるなど、排 泄の自立に向けた環境整備がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトかヤクルト・オリゴ糖を入れた飲み物を飲んでもらったり、体操や散歩で体を動かす機会を作って便秘解消の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の希望をお聴きして、ゆっくり入ってもらっている。お湯の温度調整や入浴剤を使うなどして気持ちよく入れるよう工夫している。入浴を拒否される方には、声かけを工夫したり、清拭を行い清潔保持に努めている。	浴室は2箇所配置されており、個々の利用者の希望時間に配慮した支援が行われている。入浴を拒否している方には、無理強いせず見守った上で本人のタイミングに合わせて支援している。体調不良の場合は、状態に応じて、清拭等で清潔を保持している。また、各種入浴剤を使用することで入浴時のリラクゼーション効果を高めたりも実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠出来るように、日中の活動を促している。快適な睡眠環境になるように、室温調整を行い、危険な状況が無いか巡視している。眠れないときは、無理に寝させるような対応はせず、一緒に過ごすなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに処方薬を綴じ、いつでも処方内容を確認できるようにしている。薬箱に薬の形態と数を表記し、仕分けた薬は二人以上で確認している。症状の変化があった時は、すぐ看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や日常の家事・園芸作業などが、その方の楽しみや役割になるよう支援している。買い物や外出の機会を作り、気分転換を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外出などの希望がある時は、職員が付き添って出かけている。ドライブや外食の行事で遠出する事もある。小学生との交流会に呼んでいただき参加している。	気候の穏やかな時期にはバスハイクや外食などの行事を企画し、外出支援に努めている。また、家族の協力なども得ながら、自宅近くの馴染みの場所や行きつけの商店などへの外出に対応するほか、地域の祭りや小学校の交流会に参加するなど、地域との関わりも大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が預かり金を管理しているが、買い物時には自分で支払いできるように支援している。自分でいくらか所持し、売店で買い物をしたりされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があるので、自由に電話をかける事ができる。希望があれば職員が電話をかける手伝いをしている。ご家族や友人に手紙や年賀状を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの共有スペースは広々としており、開放感が感じられる。花壇や畑で育てた季節の花を飾ったり、収穫した野菜を食べている。ご利用者の好みの音楽を流したり、リラックスできるような空間作りをしている。	リビングは広々としたスペースと天井の高い吹き抜けの構造であり、空調管理も適切に管理されている。音楽を流したり、行事の思い出のDVDを再生するなど、利用者が開放感に浸って寛いでいる姿が、和やかな雰囲気を醸成している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやたたみスペースがあり、いつでも好きな場所で過ごせるよう見守っている。自由に本やアルバムを見たり趣味を楽しんだりできるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が安全でかつ使いやすいように家具を配置している。好みの物やなじみの物を持ち込んで、快適に過ごせるよう援助している。	居室には、ベッド、タンス、テレビ等の必需品のほか、トイレ、洗面台も設置されている。本人が使い慣れた小物や家族との記念写真、大切にしていた思い出の品も持ち込まれ、居室の各所に配置されており、自室ととのギャップを感じさせない工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに必要な目印をつけたり、家具の配置を工夫したりして、安全に移動できるよう環境整備に努めている。		